

中央教育審議会大学院部会 平成21年6月10日

大学院教育 日米の違い

日米比較を通してみる
切磋琢磨型アカデミズムの重要性

Hiroaki Suga Ph.D. 菅 裕明

Professor
Chemical Biotechnology Laboratory
Research Center for Advanced Science and Technology (RCAST)
The University of Tokyo
東京大学・先端科学技術研究センター

Contact: hsuga@rcast.u-tokyo.ac.jp

切磋琢磨するアメリカの科学者たち

平成16年 出版
共立出版 (1800円)



平成18年~19年
日経バイオテクJBTジャーナル連載
「日米研究者キャリアパス」 (アクセスフリー)

<http://biotech.nikkeibp.co.jp/btjjn/>

論点：

- ・米国大学院の教育システム
- ・学生の経済的サポート
- ・日本でどう取り組むか

大学院でのメンタリング

メンタリング = 学生を育てる

- ・指導者・教員として**

学生の能力を伸ばす（能力を潰さない）
将来活躍できる場がどこか、見極めさせる

- ・制度として**

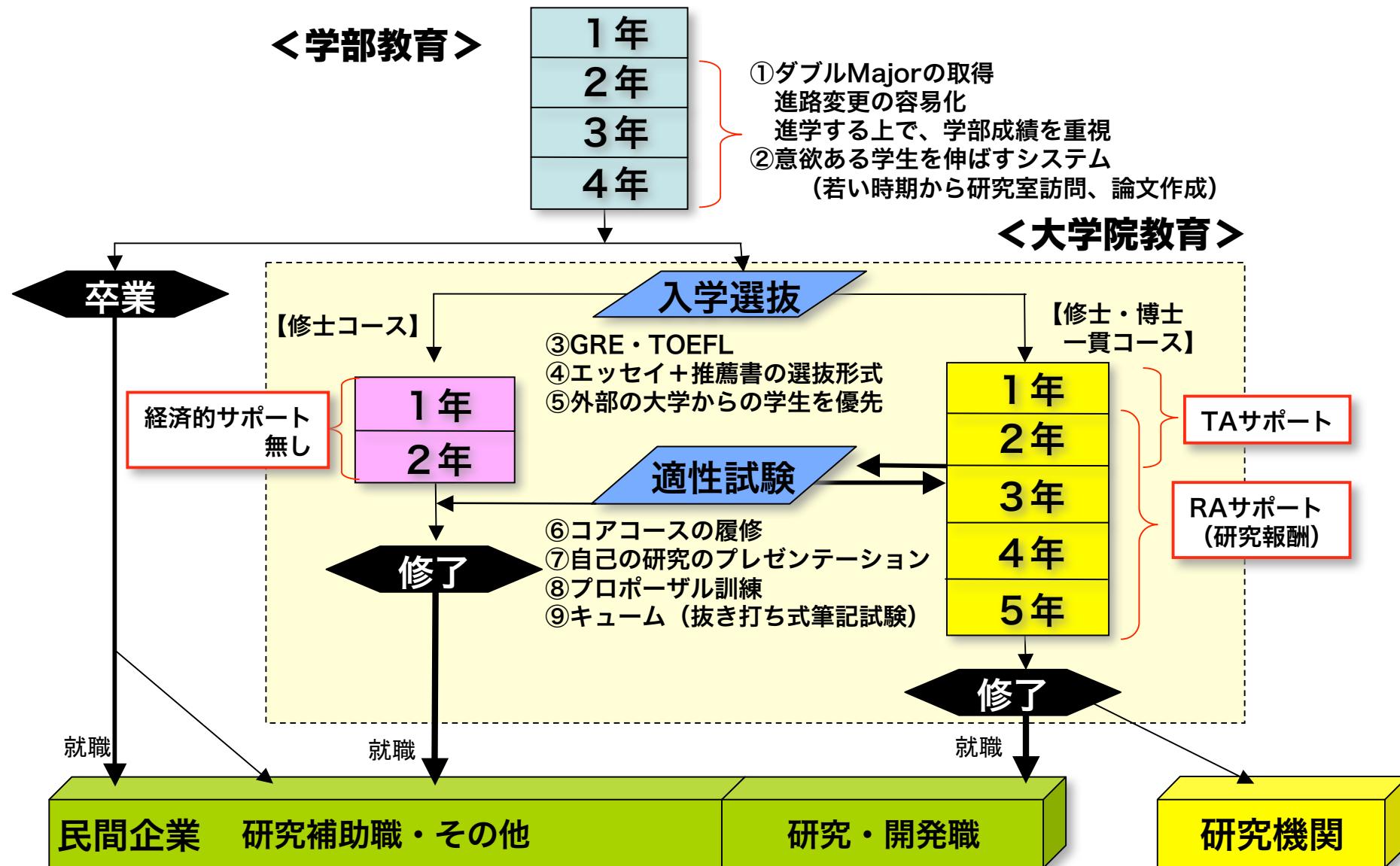
学生の能力を伸ばす（能力を潰さない）
将来活躍できる場がどこか、見極めさせる

学生は

自分の能力を最大限に伸ばす
将来活躍できる場がどこか、見極める

「大学院は自分の将来への投資である」

米国にみる大学・大学院での教育システム



Teaching Assistantship (TAサポート)

- TAshipは、博士課程全大学院生が入学1年目に受け
る経済的サポート（外国人にも適応）
 - 2年以降も継続して受ける学生もいる
 - 理系では、指導教員がRAshipを払えない場合
 - 文系では、一般的にTAshipが唯一の経済的な糧
 - 授業料は免除（あるいは所属学科が負担）
- ☞ 学生はTAの経験を通して、何を得るか？
- ✓ 学部生に教える事で、基礎知識の復習をする
 - ✓ 教える技術を学ぶ